

霞ヶ浦医療センターを受診された患者様へ

- * 当院では、下記の臨床研究を実施しております。
- * 研究は全て当院倫理審査委員会の審査を受け、病院長の許可を受けております。
- * 本研究の対象者に該当する可能性がある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合、また質問等おありになる場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
- * 診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合においても、皆様の病院サービスご利用について不利益が生じることは全くございません。
- * 研究はあくまで日常診療から集積された既存の診療情報を利用するものであり、新たに患者の皆様は何らかの負担が生じることはございませんので、ご安心ください。

研究課題名 (承認番号)	「50 歳以上の喫煙歴のある喘息患者に潜在する慢性閉塞性肺疾患 (COPD) への追加吸入薬治療に関する検討」
研究責任者の氏名 (部門)	阿野 哲士 (呼吸器内科)
研究の対象者 (期間)	喘息合併 COPD 患者 (2026 年 12 月 31 日まで)
研究の目的	COPD が潜在的に合併している喫煙歴のある中高年の気管支喘息患者の把握と追加吸入薬治療の効果を確認する。
研究の概要	<p>気管支喘息は、気道の慢性炎症を本態とし、臨床症状として変動性をもった気道狭窄や咳で特徴づけられる疾患であり、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) は、たばこ煙を主とする有害物質を長期に吸入暴露することなどにより生じた気流閉塞を伴う肺疾患である。その両者の特徴を併せ持つ病態である喘息 COPD オーバーラップという概念が一般的になり久しいが、元々気管支喘息とされて治療を受けているような現喫煙者や既喫煙者の中老年の中には、潜在的な COPD を見過ごされている可能性を否定できない。</p> <p>今回我々は、喫煙歴を有する 50 歳以上の症例 (現または既喫煙者) において既に気管支喘息と診断された症例に対してさらに COPD の合併がないかを確認し、合併を認めた場合には吸入長時間作用性抗コリン薬 (LAMA) や吸入長時間作用性 $\beta 2$ 刺激薬 (LABA) を追加することで症状や客観的指標の改善が得られるかを検討する。</p>
研究に使用される診療情報項目	病歴、身体所見、検査所見、質問票結果
個人情報の保護について	<p>被験者の ID 氏名、生年月日等の個人情報を診療録より収集するが、紙媒体で管理し、院外には持ち出さない。</p> <p>その他原資料の取り扱い、及び人権の確保についても十分配慮し、当該研究以外の利用は行わないこととする。</p> <p>ただし、当該研究に関連する研究であり、倫理審査委員会で承認を受けた場合は指針に則り利用することができるものとする。</p> <p>また、研究成果を学会・論文等で発表する場合は被験者の個人情報を一切含まないものとする。</p>
共同研究機関の有無 (名称、責任者氏名)	無
備考	

お問い合わせ先：〒300-8585 茨城県土浦市下高津 2-7-14

独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター (電話：029-822-5050)